

北海道文教大の大森圭准教授が指導

「第1回カラダラボACADEMY」

1月30日にリハビリ特化型デイサービス「カラダラボ」で、北海道文教大学の人間科学部理学療法学科の大森圭准教授を招いて、「第1回カラダラボACADEMY」が行われた。



▲集まった各店のスタッフ



▲わかりやすく丁寧に説明する大森准教授



▲セミナー後のコミュニケーションも欠かさない
鳴海プロジェクトマネージャー（左）と大森准教授

に立ち、皆さんと一緒に学ぶことは大切なことです」と力説。また「重心」をテーマに、最後は「歩く」とについて理学療法士の視点から指導するなど、

大森准教授は「私がお伝えしたことを、皆さんが別の人にも説明できるようになっていただきたいですね」と語る。今後は、応用編や技術編なども予定している。

同セミナーでは、介護医療という立場に関わらず、学術的な要素を含めて、運動学的・人間工学的に人の動きを見るための、基礎パイオメカニクス（生体力学）入門について話され、これ

を通じて、介護の現場で応用・実践することを目的としている。大森准教授は「動作というのはどのようなものなのかを知っていたりしながら、身体」という一つの視点

一方、カラダラボプロジェクトマネージャーの鳴海誠さんは、「リハビリ特化型と店舗名を謳っている以上、私たちは勉強会を通して、いろいろな知識などを身につけながらリハビリについて本気で追求していかなければいけません」ときっぱり。

大森准教授のわかりやすく丁寧な説明で、勉強会は盛り上がりを見せた。「専門職、資格がある人だけではなく無職や無資格の人でも全員同じようにサービスを提供できる体制を整えるためにもこのような勉強会は必要です」と大森准教授は意気込む。